

社会調査データの公開とコンプライアスマネジメント

田中 康裕 データ科学研究系 特任研究員

社会調査データのアーカイブ

- 研究者などに公開する活動は、例えば、米国・ミシガン大学ICPSR(Inter-university Consortium for Political and Social Research)、欧州のCESSDA(Council of European Social Science Data Archive)、我が国でも東京大学のSSJDA(Social Science Japan Data Archive)など社会調査データのアーカイブが構築され、展開されている。
- このような社会調査データのアーカイブの多くは、利用登録・申請によりデータへのアクセスを管理し、社会調査データの提供を行っているが、近年**Creative Commonsライセンスに準拠**して、データの保有者がデータの利用のされ方を決定し、公開する方法も登場している。
- また、World Values Surveyのように公的なプロジェクトとして運営されている調査プロジェクトでは、**オープンデータとして調査データや関連するドキュメント類を公開**する事例などもある。
- 本研究では、社会調査のアーカイブやデータのプラットフォームなど、近年の社会調査データ公開の事例を踏まえつつ、社会調査データ公開の在り方とコンプライアスマネジメントの検討を行う

オープンデータとしての公開

World Values Survey

(<https://www.worldvaluessurvey.org/wvs.jsp>)

- World Values Survey(世界価値観調査)は約5年に1度行われる国際比較調査。2017年に行われた第7次調査では世界80カ国で調査が行われた。
- 世界の異なる国の人々の社会文化的、道徳的、宗教的、政治的価値観を調査する。
- 公開対象を研究者に限定する等の制限は特に設けられておらず、簡単な利用者情報と利用目的の登録でデータを入手可能(利用審査などはなし)。

General Social Survey (<https://gss.norc.org/>)

- 米国シカゴ大学National Opinion Research Center(NORC)が1972年から実施する社会調査。
- 特定のテーマや社会科学の特定の領域に特化しない総合的調査を目指すもので、2021年までに33回の調査が実施され、そのデータ及び関連ドキュメントがNORCのホームページから公開されている。
- GSSのデータのダウンロードは特に登録などに必要は無く、オープンデータとして自由にダウンロードし、利用することが可能。

Creative Commonsライセンスと社会調査データの公開

European Social Survey (ESS,

<https://www.europeansocialsurvey.org/>)

- 欧州30か国以上で2年に一度実施される国際比較調査。人々の意識、信念、行動パターンを測定し、そのデータを公開する。
- 調査データはESSのホームページを通じて公開される。
- 公開される1つ1つのデータセット・関連ドキュメントにはDOIが付与され、**Creative Commonsライセンスで利用条件を定義**(データセットは、CC BY-NC-SA 4.0の条件で、関連ドキュメントはCC BY-SA 4.0の条件で公開)する。

openICPSR (<https://www.openicpsr.org/openicpsr/>)

- 米国ミシガン大学ICPSRが運営する**研究者が自由に保有する(社会調査)データを公開するためのプラットフォーム**。
- データセットを含むプロジェクトは公開対象を限定するアクセス権の設定機能の他、DOIが付与される。
- データの保有者(研究者)はデータを公開する際に、Creative Commonsライセンスなど**データの利用条件を自身で設定**して公開することが可能。

Creative Commonsライセンスとは

インターネット時代のコンテンツの流通・利活用のためのルール。

Creative Commonsライセンス自体に法的拘束力はないが、各国の著作権法に準拠してライセンスルールが整備されているため、Creative Commonsのルールを遵守することが著作権法を遵守することに繋がる。

「表示」「非営利」「改変禁止」「継承」の4つの条件について、権利保有者が流通・利用のルールを決定し、コンテンツを公開する。

近年はコンテンツだけでなく、オープンデータについても、Creative Commonsライセンスに準拠した公開の取組がなされ、このためのルール整備や手続きなども公開されている。社会調査データでもEuropean Social SurveyやopenICPSRなどでは、**Creative Commonsライセンスに準拠してデータの利用の仕方を規定し、データ公開**を行っている。

*Creative Commons Japan, Creative Commonsとは、<https://creativecommons.jp/licenses/>, 2023.09.09アクセス
Creative Commons Japan, オープンデータに関するFAQ, https://creativecommons.jp/od_faq/, 2022.09.09アクセス

openICPSRでのデータ公開事例

プロジェクトタイトル
Study on U.S. Parents' Divisions of Labor During COVID-19, Wave 1

公開されているデータセットと関連ドキュメント

| Name | File Type | Size | Last Modified |
|-----------------------------|--------------------------|----------|---------------------|
| ICPSR User Guide Wave 1.pdf | application/pdf | 3072 KB | 09/22/2022 09:49:19 |
| ICPSR Wave 1 Codebook.pdf | application/pdf | 10624 KB | 09/22/2022 02:09:19 |
| ICPSR Wave 1 Data.dta | application/octet-stream | 1.2 MB | 09/22/2022 02:09:19 |
| ICPSR Wave 1 Data.csv | application/octet-stream | 4617 KB | 09/22/2022 02:09:19 |

調査プロジェクトに関する詳細説明。データセットの内容・サブリングなどの詳細な説明を付加することが可能。

Creative Commonsライセンスなどが設定されていると、その条件が表示される。

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

データ公開の現況のまとめ

オープンサイエンス・オープンデータの潮流の中で、社会調査データを集約し、保存・共有・公開するデータアーカイブの役割には依然として重要性がある。

公的側面の強いWVSやGSS、ESSなど(国際比較)調査プロジェクトを中心に、データへのオープンアクセスを担保するために、プロジェクトの中でデータの公開を行っている。

- 社会調査データへのオープンアクセスを担保するための取組として、DOIやCreative Commonsライセンスを活用し、データの利用条件の設定や流通管理が試みられている。
- 近年では、大規模な(公的)調査プロジェクトだけではなく、研究者個人や小規模な研究グループでも、Creative Commonsライセンスを活用し、保有するデータを公開することが可能なopenICPSRのようなプラットフォームも登場。

Creative Commonsライセンスの活用は、データへのアクセスをコントロールしデータの公開を管理するという方法論から、**データ保有者の意向に沿ったデータの利用のされ方を定め、データの利用・流通を管理するという方向性への転換の試み**。

データアーカイブへの寄託だけではなく、多様なデータ公開手段が登場することによりデータを保有する研究者も自信のデータの利用のされ方や公開方法を検討することが必要に。

このようなデータ公開の世界的な動向を踏まえ、報告者が兼務する社会データ構造化センターでは、過去から現在まで統計数理研究所を中心に実施してきた各種社会調査データの公開とデータ管理のためのコンプライアスマネジメントに関する研究を進めている。